

令和二年度入学試験 B I

# 京都学園中学校

## 国語

### 注意

- 問題は全部で十一ページあります。
- 「試験開始」の合図があるまで問題を開いてはいけません。
- 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
- 質問がある場合は、静かに手をあげ、監督者が来るのを待ってください。
- 「試験終了」の合図があったらすみやかに解答をやめ、以後は監督者の指示にしたがってください。

□ 次にあげた漢字十一字をそれぞれ一回ずつ使って、①～④の条件を満たした熟語を答えなさい。

- ① 二字の熟語で、意味が似た漢字の組み合わせの熟語。
- ② 二字の熟語で、上の字が主語、下の字が述語となる熟語。
- ③ 三字の熟語で、三つの漢字がそれぞれ対等な関係の熟語。
- ④ 四字の熟語で、対たいになる意味の二字を組み合わせた語を重ねた熟語。

〔 今 西 国 町 立 東 痛 古 村 市 苦 〕

□ 次の①～④の季語の組み合わせの中で、季節の違うものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |     |   |     |   |     |   |      |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|------|
| ① | ア | 名月  | イ | さんま | ウ | 麦の秋 | エ | いわし雲 |
| ② | ア | 夕立  | イ | ほたる | ウ | にじ  | エ | 朝顔   |
| ③ | ア | 七五三 | イ | 残雪  | ウ | 節分  | エ | たき火  |
| ④ | ア | 大根  | イ | 卒業  | ウ | 菜の花 | エ | つばめ  |

③ 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

もうひとつ、この上司が教えてくれた大切なことがあります。それは「生真面目まじめにならないこと」。

ブータンでの仕事を始めたばかりのころ、私の目には、あちらにもこちらにも、課題が山積みのように見えました。なにしろ人口も少ない小さな国です。手が回っていない課題は山ほどあります。その上人々ものんきななので、見ていてはらはらしてしまうことも多々あります。「ブータンの国内空港、あと一カ月後にオープン予定だと世界中に発信しちゃってあるんですけど、現場を「シヤツ」に行ったら A いましたよ。地ならしすら始められていません。さすがにまずくないですか……」などと、日々心配になってしまふことの連続です。やらなくてはいけないことが山積みの職場で、自分にできることは精一杯せいいっぱいやりつつも、それでも手が回らない課題は山ほどあり、どうすればいいのだろう……と悩むなやむこともありました。

そんな相談をすると、決まって上司は笑いました。「たまこは、真面目すぎるんだよ」と。「日本人だからかなあ。でもそこは、<sup>①</sup>たまこはもつとブータンで学んだ方がいいよなあ」などとぶつぶつ言いながら、上司はこんな話をしてくれました。

「なんでも『どうにかできる』と思ってはいけませんよ。それは、人間の <sup>2</sup>カシかしンんというものだ。人間なんて、大きな大きな自然の中の、ほんのちっぽけな存在でしかない。しかも、そのちっぽけな人間社会の歴史の長さに比べたら、僕たちが生きているのなんて、ほんの一瞬いっしゆんなんだ。最初から、なんでもどうにかできると思っではいけない」

そして、彼の尊敬する第5代国王の例も用いて、こんな話をしました。

「そもそも、僕たちができることなんて、限られているんだ。だから、自分にできることを、等身大でがんばればよい。できることを、すればよい。僕たちの国王はいつもこう言っているんだ。『小さくても、できることをすればよい。最初は小さな動きでも、いいものは、波紋はもんのようにどんどん

広がっていくんだよ』ってね。

だから、自分がどうにかできることにフォーカスするんだ。それ以外のことについて、課題をみつけて嘆いたりしていても、仕方がないんだよ。② ② 自分の身の丈を超えて、生真面目に思い悩みにぎてはだめだ」

彼は、茶目っ気たっぷりに、こう言ってくれました。

「肩の力を抜いて、リラックスして、こう思うことも大切なんだ。『これでいいのだ』ってね」

ブータンは、みんなが幸せな夢の国、として日本では語られることが多いように思います。でも、この本で紹介してきたように、現実はそのままで単純ではありません。ブータンには貧困がありま  
すし、経済格差もあります。それでいて都心部ではバブルもはじまっている。都市の若年層の失業  
率は高いのに、建設業などの仕事はほとんどインドからの非熟練労働者に依存しているという歪  
だ構造もあります。人種問題も複雑です。約束が重視されないブータン社会では、ものごとは決し  
て予定どおりに進みません。サービスの質も高くなく、クリーニングにセーターを出したら左袖が  
ちぎれてなくなって返ってきたりします。浮気がちでもあるので離婚率も高いです。平均寿命だっ  
て、日本より20歳ほど低い。

③ ③ でも、ブータンの人々は、胸を張って自慢をします。「どうだ、いい国だろ」と。そして、こ  
う聞いてきます。「日本は、すごく忙しくてリラックスしてないって聞くけど、どうなんだ？日本  
もいい国なのか？」と。

私は、その問いに対しては、胸を張って答えない。「日本も、すごくいい国だよ。ぜひ一回、来  
てみてほしいよ」

もちろん、日本にだって、いろいろある。課題は、山ほどあります。でも実は、ブータンにだっ  
て、いろいろあるのです。④ ④ 隣の芝生は青く見えるのかもしれない。幸せの国と世界から言われて  
いたら、なおさらうらやましくもなります。でもブータンの政府の中で働きながら、ずっと強く感

じていたのは、<sup>⑤</sup>「この「夢の国」ではないということ。現実の課題がある、現実の国です。それでも、ブータンの人たちは、うそでも強がりでもなんでもなく、胸を張って、こういつているのです。「どうだ、ブータン、いい国だろ」と。悔しいぐらいに、彼らは心からそう思っていますし、日本についても聞いてきます。「日本も、いい国なのか？」と。

そんなブータンから、私たちが学べることは、この彼らの <sup>3</sup>ズブトさなのかもしれません。「いろいろあるけど、でもやっぱいい国だろ」と言える、その鈍感なまでの、あっけらかんとした、強さ。

自分が解けもしない課題のことを日々嘆いて過ごしたりは決してしない。日々、家族のことを考え、友人のことを考え、できることを精一杯し、それ以外は、いろいろあるけれど、まあ、いいんじゃない？ と気楽に捉える。そんな強さを彼らは持っています。

「これでいいのだ」と思う力。

それははからずも、日本人の私が、ブータン政府の中に飛び込んで、ブータンの人々と泣いたり笑ったりしながら汗をかいて働く中で、上司に一番言われたことでもありました。

生真面目にならない。

どうにかせねばと思いきすぎない。

肩の力を抜く。

そして、にっこり笑ってこう言ってみる。

まずは自分に言ってみる。

「B」と。

(御手洗瑞子『ブータン、これでいいのだ』)

B | 日程

問一 ㄣ部 ㄣのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 A にふさわしい表現を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 大きなビルが建って
- イ いつでも利用できるようになって
- ウ まだ山があつて牛が放牧されて
- エ 反対運動のデモ隊が

問三 —部 ① 「たまこはもっとブータンで学んだ方がいいよなあ」とありますが、何を学べと上司は言っているのですか、十一字でぬき出しなさい。

問四 —部 ② 「自分の身の丈」とありますが、文中での意味としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の身長
- イ 自分の能力
- ウ 自分の体力
- エ 自分の学力

問五 —部 ③ 「ブータンの人々は、胸を張って自慢をします。『どうだ、いい国だろ』と」  
ありますが、なぜこのようにブータンの人々は胸を張って自慢できると筆者は考えているのですか、二十字程度で答えなさい。

問六 — 部 ④ 「隣の芝生は青く見える」とありますが、その意味としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア つまらないものでも、ないよりはましであること。
- イ 自分のものよりも、相手のものの方がよく見えること。
- ウ 好きな相手のことなら、欠点も長所のように見えること。
- エ 意見や忠告などをいくら言っても、全く聞き入れないこと。

問七 — 部 ⑤ 「ここ」とは何を指していますか、適切に答えなさい。

問八 B にふさわしい表現を次から選び、記号で答えなさい。

- ア がんばったよね、十分だよ。
- イ 日本が一番いい、やっぱり。
- ウ もっとがんばれる、私なら。
- エ ブータン、これでいいのだ。

四 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

ハヤシライスほど牛肉の質に左右されるメニューはない、というのが綾香の口ぐせで、凧が家に帰るとすでに深めのフライパンで近所の肉屋で買った牛のこまぎれに火を通していた。

「ただいまあ」

「おかえり。トマトとマツシユルムは買ってきてくれた？」

料理の際、家族内で唯一きっちりエプロンをつけて髪をまとめる綾香が、手を動かしながらふりむきもせず凧に尋ねた。

「買ってきた、サラダ用のレタスとクルトンもいっしょに。肉、早く炒めすぎやない？ 硬くなるよ」

綾香は菜箸で肉を転がしながら、丸みのある横顔で微笑った。

「凧ちゃんがガレージに自転車を置く音が聞こえてから、フライパンを熱し始めたんやし、だいじょうぶよ。鍋に水を入れて、沸騰させてくれる？ トマトの湯むき用」

シンク前のテーブルにスーパーの袋に入ったままの材料を置いて、そのまま立ち去ろうとしていた凧は、綾香の穏やかだが有無を言わさぬ口調に頭の向きを変えられて、**A**「しゃがみ込み十年選手の行平鍋を取り出して、蛇口から水を注いだ。夕食番は三姉妹で交替制だが、自分の当番の日ではなくともときどきこうして手伝われる。」**B**「料理が不得手の凧は、**C**「テシユンが分からな

くなり台所で大騒ぎしては、度々綾香の知恵を借りるのだから、お互い様だ。鍋が煮立つと、姉の指示通り凧は洗ってへたを取ったトマトを三個、鍋に恐る恐る入れる。

「熱ッ」

湯にはさわっていないのに、熱い <sup>2</sup> ショウキが指先を取り巻いて、凧はあわてて手を引っ込める。

「お玉で入れればいいのに」

下味付けのさいちゅうで忙しい綾香が遅いタイミングでアドバイスを入れ、残りのトマトは玉じ



やくしてゆつくりと沸騰したお湯に沈めた。

「私も主婦として定年を迎えます」と母が父の定年のタイミングでおごそかに切り出したとき、三姉妹はまったく意味が分からなかったが、つまりはそれが、二度と食事は作らないという母の宣言だったのだ。

「三人もの子どもの毎食のご飯、お弁当、ほかのお世話もすべて、母さんは大変がんばってやってきました。もう十分。名入りの包丁も重い木のまな板も、油の焦げ付いたコンロも当分は見たくない。これからは趣味の料理だけ、したくなったらします。朝と昼ご飯は各自で、お夕飯はあんたらで作りなさい」

① 話があります、とわざわざリビングに呼び出された三姉妹と父のうち、綾香だけが若干動揺して、口を引き結んだが、残りの家族たちはへっちゃらな顔をしていた。羽依にいたっては「話っただけ？ 友達と電話してる途中だから、部屋戻るね」と座っていたソファの背を飛び越えて、二階の自室へ続く階段を軽い足取りで登っていった。

② 「父さんはメイワクかけないから」

日ごろ家族内の四人の女に圧倒されて、かつ粗食をまったく厭わない父は、とりあえずそうつぶやいて、残った二人の姉妹の反応を見た。

③ 「いいんじゃない。私もなるべく大学で食べてくるようにするし」

④ どこか浮き浮きした口調の凛と、感情を表に出さない綾香に母はため息をついて、長年使い続けてきたかつぼう着をたたんで、腕のなかで D と巻いた。

「なるべく、じゃなくて、毎度のご飯を自分で考えるようにね。私もときどき自分と父さんの分は作るけど、あてにせんといてね。あー疲れた、これでお勝手に立たなくて済むと思うと、  
④ 人生が  
倍に広がったくらい、清々しい気分になるわ」

「母さん、おおげさ」

うんと背伸びする母の姿に、ソファにもたれたまま凛が笑う。

「母さん、いままでありがとう」

唯一ちゃんも礼を言った綾香と、続いてあわてて頭を下げた父に、母は厳しい表情のまま、うんと一度うなずき、ため息をつきながら廊下へと消えていった。凜も礼を言いたかったが、ついタイミングを逃した。社会人の綾香にくらべて、大学生で母に手料理卒業宣言を下された羽依や自分はかなり不憫なのではないかという拗ねた思いが、心をかすめていたからだ。かといって毎度夕食の時間を気にして帰宅を早めたり、今日は食べないと連絡し忘れて母に怒られる窮屈な日々に戻りたいたいと思わない。自宅での手料理が当たり前前の家庭で育った凜は、外食に憧れてさえた。家にご飯があると思うと、あまり入る気にならなかったレストラン、身体に悪いと母に怒られ続けたファストフード、あれもこれも食べてみたいと凜の夢はふくらむ。学生食堂は安いわりに意外なほど美味しいから、昼も夕も利用してもいいかもしれない。

しかし半年も経たないうちに外食の濃い味に辟易した凜は、同じ状態だった姉たちと一緒に、なんとか再び台所に立つてもらえないかと母に懇願したが、けんもほろろだった。長年の主婦友だちと趣味へ習い事へ行楽へと出かける楽しみを覚えた母は、夕飯どきにちゃんと帰ってくることにすまぬらしくなった。遊びだしてからのというものの表情は明るくなり腹の底から笑い声を響かせるようになったので、家族も生き生きとした母を止めることができなかった。

母の面立ちは三姉妹の誰にもあんまり似ていない、というのが奥沢家や彼らの親族の長年の定説だった。しかし怒濤の三連続の子育てを終えて、食事作りの家事からも解放されると、厳めしい表情が柔らかくなり、無駄な脂肪が落ち、年月の蓄積から顔立ちの輪郭が削り出された。するとつぶらな瞳は長女の綾香に、うすい唇は次女の羽依に、ふっくらした頬は末娘の凜に似ていることが判明した。しかし母の太い鼻柱は、どの子どももやっぱり受け継いでいなかった。

そうしてぎこちない当番制の夕食作りがスタートした。凜は進学した大学院での研究の忙しさ、羽依はセイライの料理嫌いから綾香ばかりが代打を頼まれる日々が続いている。綾香がただで引

き受けるはずもなく、二人は晩ご飯の用意を代わってもらう度に綾香に三百円払い、回数を重ねると割と深刻に「懐ふところに響いてくるこの代金を二人は「夕食税」と呼んでいる。給料と夕食税とで綾香は結構貯めこんでいるぞと、家族たちは噂うわさしている。

以前食事の場で羽依が「将来のための結婚資金か」と綾香をからかったところ、顔を真っ赤にして怒るといふ本気の反応が返ってきたので、以降奥沢家では夕食税の行方ゆくえに対しての質問は禁句になった。

(綿矢りさ『手のひらの京』)

問一 〰〰部 1 〰3のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 

A
---

D
---

 に当てはまる語としてふさわしいものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア くるくる      イ しぶしぶ      ウ いそいそ      エ ぐらぐら      オ まだまだ

問三 〰部 ①「話があります」とありますが、母は何を伝えようとしたのですか。本文中のこれ以降の部分から七字でぬき出しなさい。

問四 〰部 ②「父さんはメイワクかけないから」・③「どこか浮き浮きした口調」にこめられた父・凜それぞれの思いを簡潔に説明しなさい。

問五 〰部 ④「人生が倍に広がったくらい、清々しい気分になるわ」とありますが、「清々しい気分」が母の実際の様子として表れている箇所かしょを本文中から三十字以内でぬき出しなさい。

B | 日程

問六 — 部 ⑤ 「辟易した」・⑥ 「けんもほろろ」の意味としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

⑤ 「辟易した」

ア 落ち込んだ      イ うんざりした      ウ 怒りくるった      エ 我を忘れた

⑥ 「けんもほろろ」

ア 取り乱して暴れるさま      イ 話を聞いてもらうが断られるさま  
ウ とりつくしまもないさま      エ 両手をあげて大喜びするさま

問七 — 部 ⑦ 「母の太い鼻柱」とありますが、これは何を象徴したものと考えられますか。次から選び、記号で答えなさい。

ア 母がずっと隠していた自分の好きなことしかしないというわがままさ。  
イ 母が自分のことを優先しながらも娘のことを考えるところという愛情の深さ。  
ウ 妻として、母親として夫婦がともに歩んできたから生まれた信頼の絆。  
エ 本来母が兼ね備えていた一度決めたら最後までやるという意志の強さ。

〈問題はこれで終わりです〉

受験番号

学校名

小学校

氏名

○

○

点線より下には何も記入しないこと。  
《成績集計欄》

一

①

②

③

④

二

①

②

③

④

三

問一

1

2

3

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

四

問一

1

2

3

問二

A

B

C

D

問三

問四

③

②

問五

問六

⑤

⑥

問七

B I

# 国語B 1

【計12点】

- ① 苦痛 ② 国立 ③ 市町村 ④ 古今東西

【計8点】

- ① ウ ② エ ③ イ ④ ア

【計36点】

- 問一 1 視察 2 過信 3 凶太

(2点×3)

問二 ウ

(4点)

問三 生真面目にならないこと

(4点)

問四 イ

(3点)

問五 何事もあつげらかんと捉える力があるから。

(6点)

問六 イ

(3点)

問七 ブータン

(5点)

問八 エ

(5点)

【計44点】

- 問一 1 手順 2 蒸気 3 生来

(2点×3)

- 問二 A イ B オ C エ D ア

(2点×4)

問三 手料理卒業宣言

(5点)

問四 ② 自分は粗食でも全く気にしないので、自分が巻き込まれることを避けたい気持ち。

③ 今までなかなか機会のなかった外食が出来ると期待に胸を膨らませる気持ち。

(5点×2)

問五 表情は明るくなり腹の底から笑い声を響かせるようになった(4点)

問六 ⑤ イ ⑥ ウ (3点×2)

問七 エ (5点)